
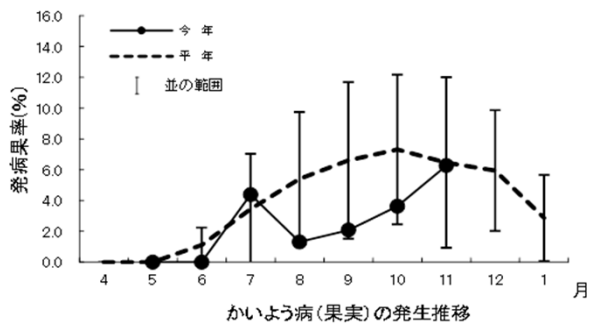
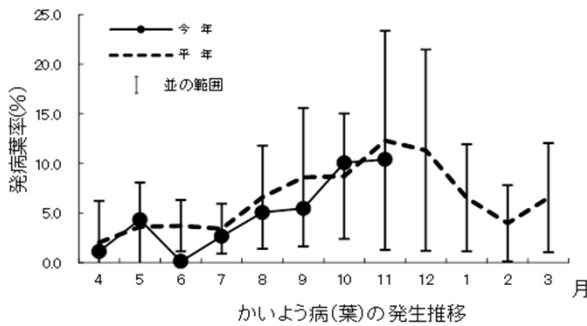


作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠		今後1か月の降水量が多い見通しから、11月と同程度の発生量と考えられる。	

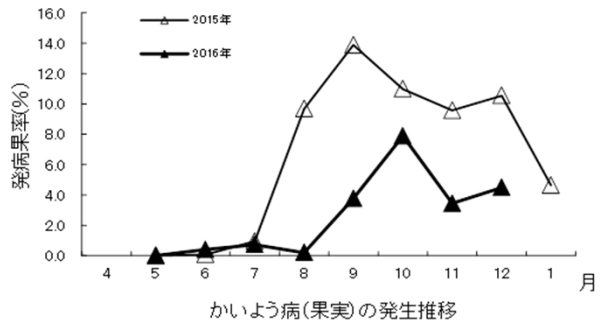
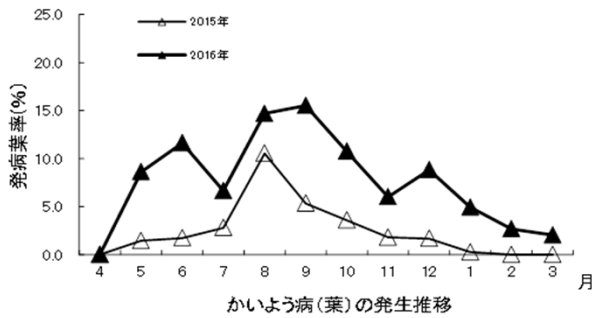
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、発病葉率は10.4% (前年6.0%、平年12.3%) と平年並であった。
- ・ 発病果率は6.3% (前年3.4%、平年6.5%) と平年並であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)




防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努める。



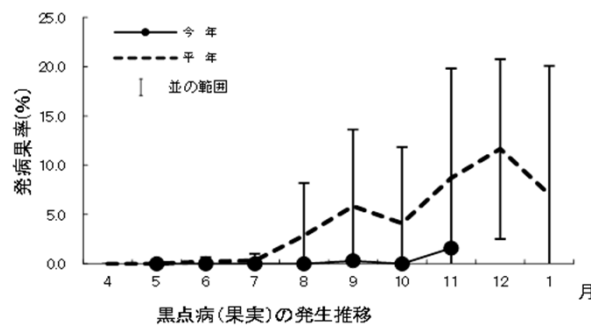
ハモグリガ被害痕からの感染

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病果率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

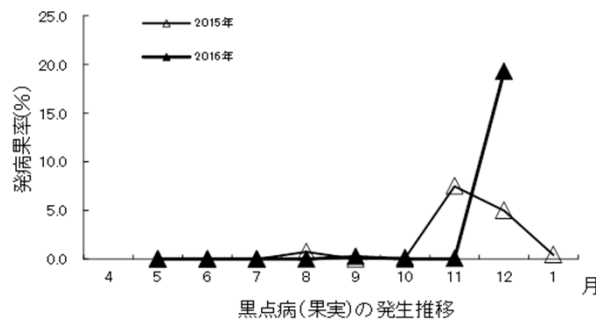
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、発病果率は1.6% (前年0.1%、平年8.7%) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

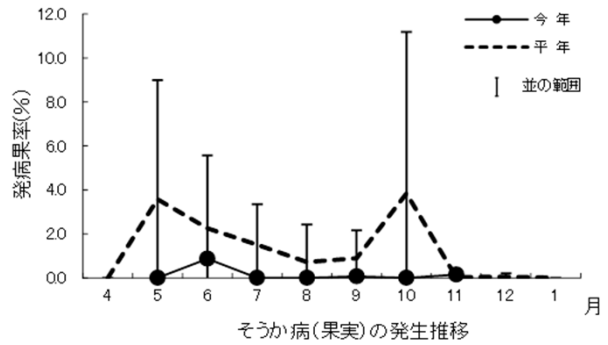
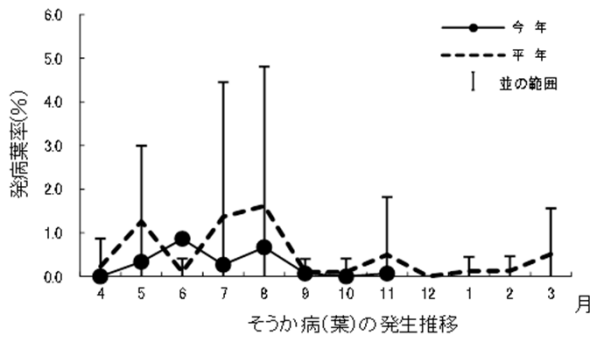
- ・ 周辺の防風樹も含めて、枯れ枝は丁寧にせん定し処分する。
- ・ 園内の通風、採光を良くするために、間伐、せん定等の管理を徹底する。

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	③ そうか病		
11月の発生量 (現況)	多		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病果率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

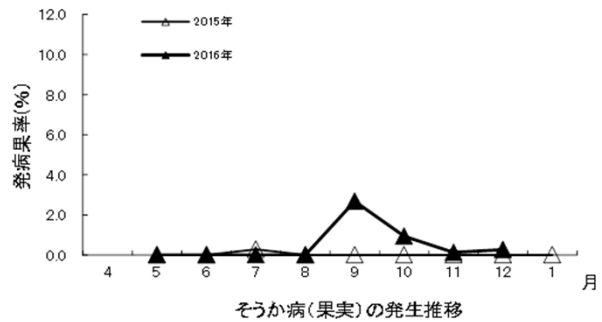
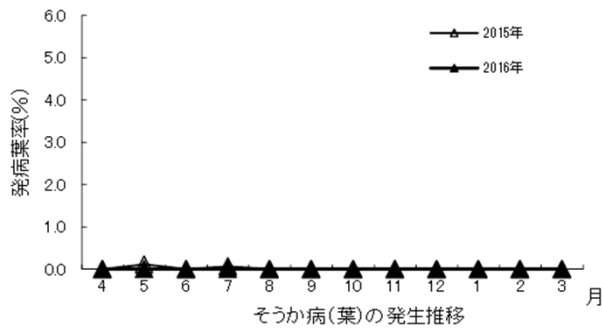
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、発病葉率は0.1% (前年0%、平年0.5%) と平年並であった。
- ・ 発病果率は0.1% (前年0.1%、平年0.1%以下) と平年より高かった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)




防除のポイント

- ・ 罹病枝、罹病葉を除去し、伝染源を極力少なくする。



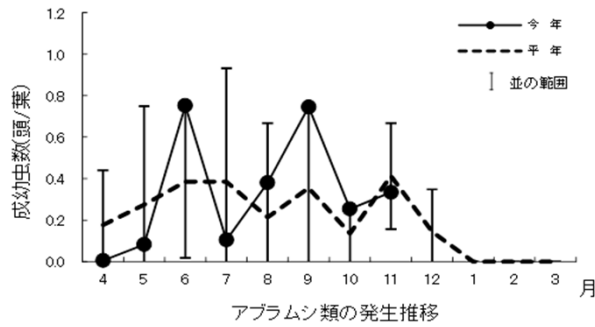
罹病葉

作物	かんきつ (タンカン)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ アブラムシ類		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↘		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。		

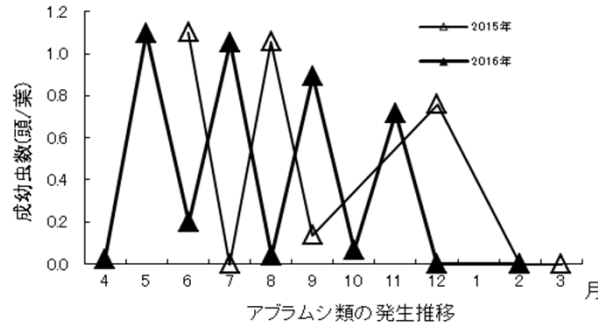
発生量の根拠 (調査結果)

- ・ 11月中旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0.3頭 (前年0.7頭、平年0.4頭) と平年並であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ・ テントウムシなどの天敵によって本種の増殖は抑えられるが、密度が高い場合には薬剤による防除を行う。
- ・ 新梢や新葉に寄生する。アリを探すことで、アブラムシの発見が容易になる。

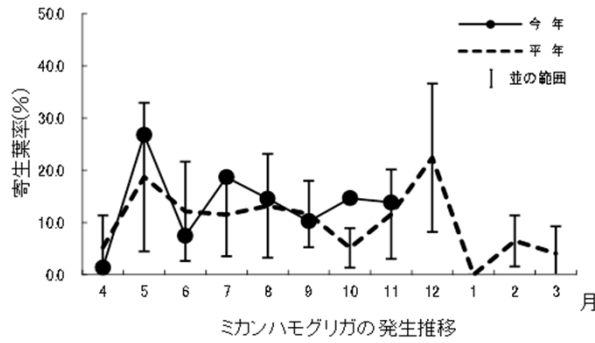


作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑤ ミカンハモグリガ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

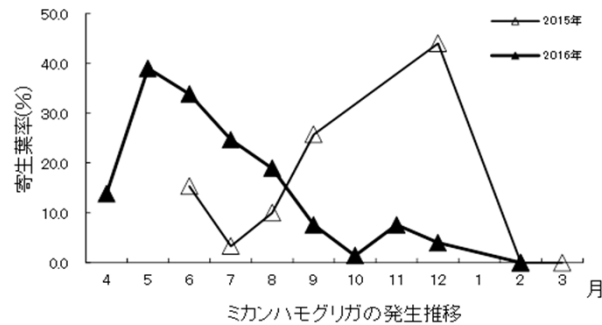
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、寄生葉率は13.8%（前年7.6%、平年11.6%）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

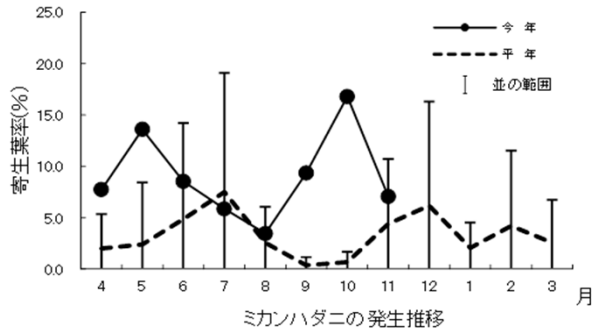
- ・ 本種による食害痕からかいよう病が発生しやすく、翌年の伝染源になるので、被害葉の除去に努める。
- ・ 被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。

作物	かんきつ（タンカン）	地域	沖縄群島
病害虫名	⑥ ハダニ類		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

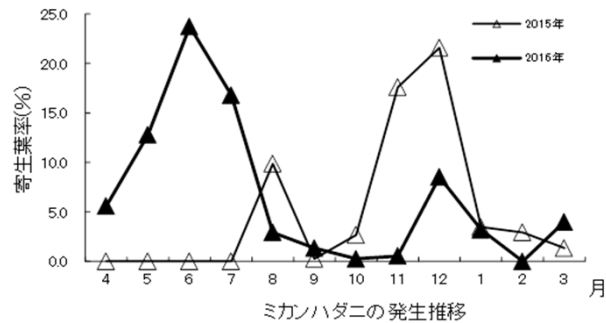
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月中旬の調査の結果、寄生葉率は7.1%（前年0.5%、平年4.4%）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状